講義録レポート

講義録コード　04-57-2-201-01

講　座	システム監査技術者	科目①	模試編
目標年	2025年秋期合格目標	科目②	公開模試解説
コース	本科生プラス　本科生 午前Ⅰ免除コース	回　数	1　回

講師名	西村　太一　講師	内訳	板書枚数	1　枚
			補助ﾚｼﾞｭﾒ枚数	34　枚
			その他	0　枚

講義構成	解説1 (58分) → 解説2 (60分) → 解説3 (49分)
使用教材	公開模試 午前Ⅱ/午後Ⅰ/午後Ⅱ問題
	公開模試 解答・解説
配付教材・資料	
備考	

この講義録の著作権は、TAC株式会社または権利者に帰属しており、当社に無断で複製、改変、転載、転用、インターネット上にアップロードする等の著作権を侵害する行為は法律によって禁止されております。

ＴＡＣ情報処理講座

情報処理 講義録	コース・講義等	システム監査	科目	公開模試解説	回数	1

配布物	★テスト類：[ ]	講師	西村 先生
	★その他の配布物1：[ ]		
	★その他の配布物2：[ ]		

黒板内容

2025 システム監査技術者対策 模試解説

・午前Ⅱ解説 …… 問1～10

・午後Ⅰ 〃 …… 問1

・午後Ⅱ 〃 …… 問1（設問イ）

ラスト1Wの対策スケジュール

(月)：午前対策 問題演習50題以上

(火)： 〃 〃

(水)：午後Ⅰ対策 45分解く → 1時間検討 × 2題以上

(木)： 〃 45分解く → 30分検討 × 3題以上

(金)：午後Ⅱ対策 論文例を5本以上読む

(土)： 〃 論文を1本作成，余裕があればもう1本

※徹夜厳禁，土曜日はゆっくりねる！

この教材の著作権はＴＡＣ株式会社または権利者に帰属しています。
当社が特に認めた場合または著作権法上の例外を除き、当社に無断で複製、転載等をおこなうことは禁じられています。 TAC Wセミナー

システム監査技術者　模試解説

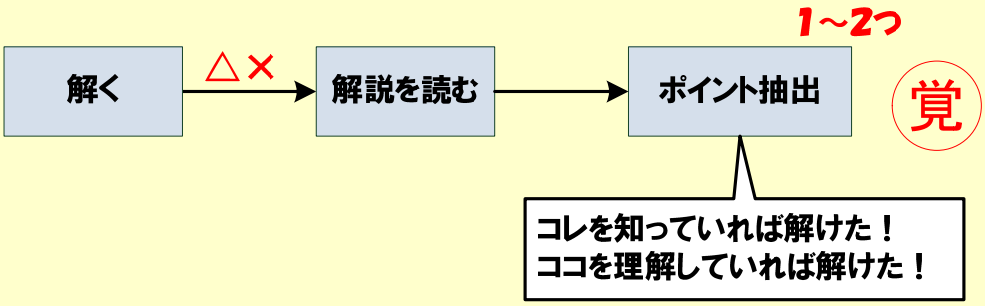
2025
システム監査技術者対策
模試解説

- 午前Ⅱ解説　…　問1～10
- 午後Ⅰ解説　…　問1
- 午後Ⅱ解説　…　問1(設問イ)

午前対策の要点

午前対策

→ **知識を増やす　→　問題演習中心**



問1

問1　システム監査基準（令和5年）におけるシステム監査に係る権限と責任等の明確化に関する記述のうち，適切なものはどれか。

覚

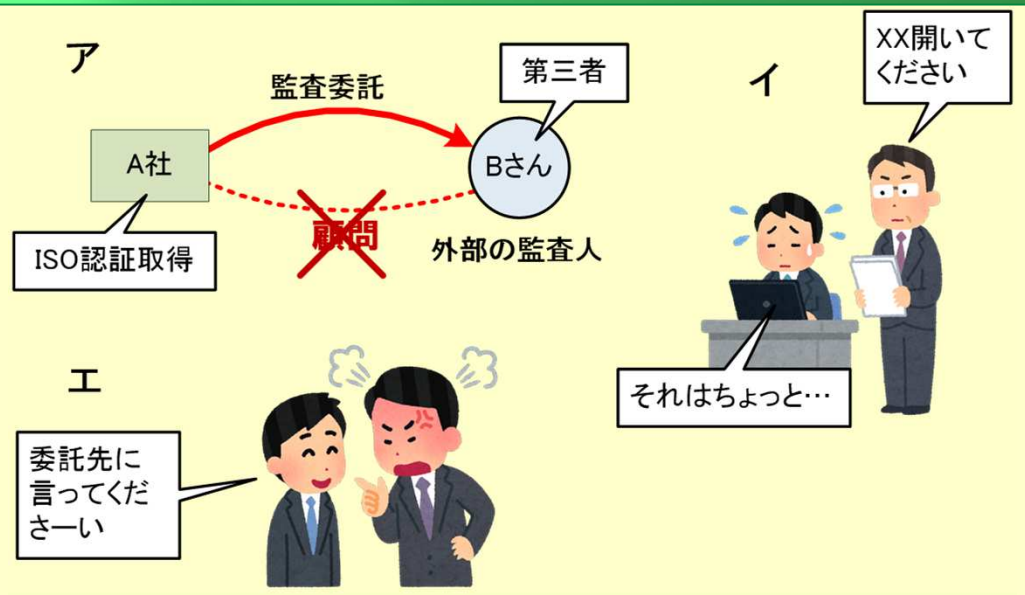
ア　外部委託先の専門家は，委託元の組織体と身分上又は経済上の特別な利害関係を有してはならない。

イ　監査人の有する権限については，有効な監査を行うために当該組織体には秘密とすることが求められる。　周知する

ウ　システム監査業務の一部を組織体外部の専門家に委託してもよいが，全部を委託してはならない。　OK

エ　システム監査業務を外部の専門家に委託する場合は，権限だけでなく責任も委譲することを，文書化された規程等により定めなければならない。　責任はもつ

問1



問2

問2　システム監査基準（令和5年）におけるアジャイル手法を用いたシステム開発の監査に関する記述のうち，適切なものはどれか。

ア　アジャイル手法を用いたシステム開発であっても，監査証拠を確保するために関連するドキュメントを入手し内容を精査する必要がある。

イ　アジャイル手法を用いたシステム開発の監査手続においては，コンピュータ支援監査技法を採用することが望ましい。

ウ　ウォータフォール等の従来型開発手法とは作成されるドキュメントの種類が異なるため，開発手法に応じた監査証拠を入手すればよい。

覚

エ　監査にあたっては，システム監査人が監査対象部門に直接赴（おもむ）いて，自ら観察・調査しなければならない。

タスク看板

ア

タスク看板

写真1：タスクカンバンの例 その1（出典：アジャイル開発とスクラム）

問3

問3　システム管理基準（令和5年）において，“ITガバナンスの実践を支える活動”としてITガバナンス実践に必要な要件の一つに挙げられているものはどれか。

ア　業務の有効性及び効率性の確保　内部統制

イ　経営戦略とビジネスモデルの確認

ウ　効果的なITパフォーマンスの確認と是正

~~要件~~　具体的な活動

エ　データ利活用と意思決定

ITガバナンスの定義／五つの要件

解説p.4

＜ITガバナンスの定義＞

ITガバナンスとは，組織体のガバナンスの構成要素で，取締役会等がステークホルダーのニーズに基づき，組織体の価値及び組織体への信頼を向上させるために，組織体におけるITシステムの利活用のあるべき姿を示すIT戦略と方針の策定及びその実現のための活動である。

ITガバナンス → 5つの要件

- ステークホルダへの対応
- 取締役会等のリーダシップ
- データ利活用と意思決定
- リスクの評価と対応
- 社会的責任と持続性

覚

問4

問4　監査調書を作成する場合の秩序性に関する記述として，適切なものはどれか。

→ 内容が整理

ア　監査目標に適合した検証内容が記録されている。　立証性

イ　記載事項が体系的に整理されている。

ウ　事実を確認した時点で逐次記録されている。　現時性

エ　自ら確認した事実が記録されている。　真実性

監査調書作成上の留意点

▶監査調書作成上の留意点

テキストp.68

留意事項	留意内容
真実性	システム監査人が自ら確かめた事実に基づいていること
立証性	記述内容は監査目標に適合した，すなわち監査の結論を立証するものであること
完全性	システム監査の全プロセスを完全に文書化していること
秩序性	体裁上，記載事項が体系的に整理されていること
明瞭性	当該監査調書の作成者でなくても，口頭での補充説明を要せず誤解なく理解できるよう，簡潔明瞭であること
経済性	監査調書から得られる効果は，その作成に要する工数を上回るものであること
現時性	監査調書は監査の実施記録であるので，その時点で逐次作成していること
客観性	監査調書の資料や記述は監査人の主観にかたよらない客観的なものであること
再現性	他の標準的な監査人が監査を実施した場合，同じ検証結果を得られること

読

問5

問5　監査技法の適用に関する記述のうち，最も適切なものはどれか。

監査人が作成

ア　売上計上の妥当性を監査するために，あらかじめ被監査部門にチェックリストを作成してもらい，売上計上に関する上司の承認の有無や伝票入力の確認の有無などをチェックした。

イ　給与データの改ざんの有無を監査するために，給与計算の担当部門に赴(おもむ)き，現地調査によって，担当者の作業について流れを追って確認した。 プロセスの確認

ウ　コンピュータセンターの入退室に関するセキュリティを監査するために，コンピュータ支援監査技法を用いて入退室の手続を確かめた。 プログラムの正しさ

覚

エ　システムの開発段階の作業における適切性を監査するために，成果物である開発手順書やシステム設計書，テスト計画書などのドキュメントをレビューし，責任者の承認があることを確かめた。

問5

Q1 画面に表示されたエラーメッセージを確認していますか？

□必ず確認している　☑時々確認している　□全く確認していな

問6

問6　クラウドサービスの選定・導入に関する監査において，監査人が実施すべき手続のうち，適切なものはどれか。

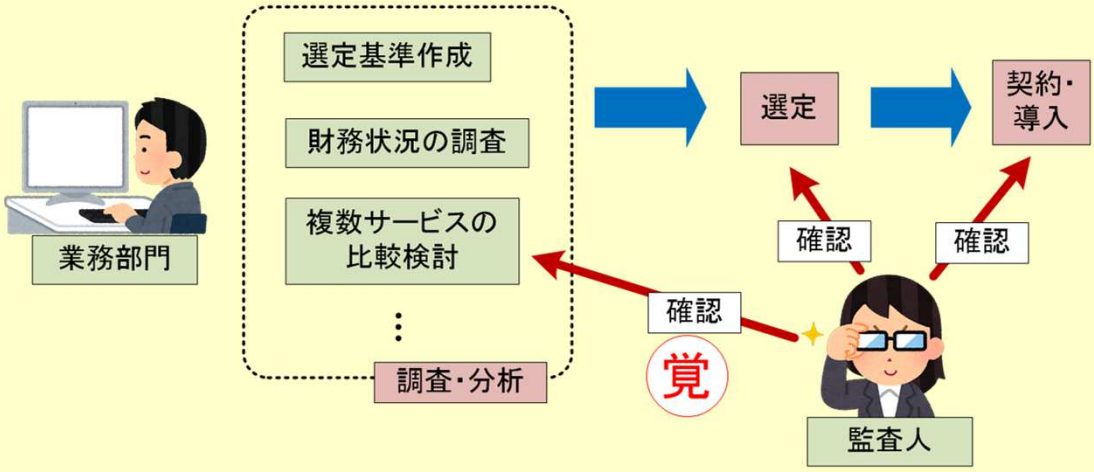
ア　クラウドサービスの選定基準を策定し，その基準に基づいて導入するサービスを選定する。

イ　選定対象のクラウドサービスを提供する企業の財務状況が健全かどうかを調査する。

ウ　選定の際にクラウドサービスの安全性が十分に検討されているかどうかを確認する。

エ　複数の企業が提供しているクラウドサービスの資料を入手し，比較検討する。

業務部門／監査人がやるべきこと



問7

問7　JIS Q 19011：2019(マネジメントシステム監査のための指針)における“複合監査”はどれか。

ア　1回の訪問で複数の監査を行うこと

イ　一つの被監査者において，複数のマネジメントシステムを同時に監査すること　覚

ウ　複数の監査する組織が一つの被監査者を監査すること　**合同監査**

エ　複数の人で監査を行うこと　**監査チーム**

問8(問題文)

問8　金融庁“財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準(令和5年)”における内部統制の基本的要素の一つである“ITへの対応”について，ITの利用に関する記述のうち適切なものはどれか。

問8（選択肢）

ア　回収が滞っている売掛金を管理するシステムを構築しておくことにより，瞬時に帳簿在庫と実在庫の差を把握し，問題の発見に役立てることができるようになる。

システム的な誤り

イ　経営者が電子メール等を用いることは，重要な機密が漏えいするリスクにつながるため，避けるべきである。

避ける → 利用

ウ　生産管理システムを開発し，製造指図書に従って在庫原材料の出庫数量を入力する手続や原材料の実在庫データを入力する手続等を業務プロセスに組み込むことにより，適切な売掛債権の管理を有効かつ効率的に行うことができるようになる。

システム的な誤り

エ　ホームページ上でメッセージを掲載するなどITを利用することにより，組織外部に向けた報告を適時に行うことが可能となる。

内部統制の基本要素

内部統制の基本要素

- 統制環境 … 組織の気風，統制に対する意識
- リスクの評価と対応 … リスクの識別，分析，評価，対応
- 統制活動 … 経営者の命令や指示が適切に実行
- 情報と伝達 … 必要な情報が正しく伝えられる
- モニタリング … 内部統制を継続的に評価
- ITへの対応 … 組織内外のITに適切に対応
  - IT環境への対応 … ITの利用状況の考慮
  - ITの利用 … 内部統制の実現にITを利用する
  - ITの統制 … ITを用いた業務に対する内部統制

覚

問9

問9　システム管理基準　追補版（財務報告に係るIT統制ガイダンス）（令和6年）における内部統制とITの関係の記述として，適切なものはどれか。

ア　IT統制は，IT全社的統制，IT全般統制，IT業務処理統制に区分される。

イ　ITへの対応は，IT環境への対応，ITシステムの開発，IT統制から構成される。

ウ　ITへの対応は，他の5つの内部統制の基本的要素とは独立して存在する。

エ　内部統制の目的を達成するためには，ITへの対応は必須である。

ITの利用

不可分

そんなことはない

問9

ア

覚

IT全社的統制

- セキュリティポリシーの作成
- 情報システム管理体制の作成，責任者設置
- 中長期計画の作成

IT全般統制

- 業務全般に関係する方針や手続
- ITそのものに対する統制

IT業務処理統制

- 個別業務に組み込まれた統制
- エラー修正と再処理，マスタデータの維持管理など

問10

問10　業務システムに対する従業員の不正利用を牽制によって抑止する施策として，最も適切なものはどれか。

ア　業務サーバのアクセスログを取得し，定期的に分析評価していることを全従業員に周知する。

イ　業務システムを利用してデータを入力する際に，ベリファイチェックを行い，不正なデータが入力されないようにする。　**正確性を確保**

ウ　業務処理統制の整備状況や運用状況を監査人が検証し，業務システムの安全性向上に寄与する助言を行う。　**監査活動**

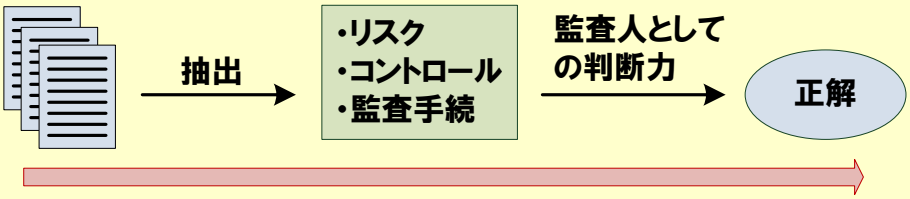
エ　従業員に付与する業務システムの利用権限を限定し，権限のない者からのアクセスを遮断する。　**防止**

午後Ⅰ対策の要点

午後Ⅰ対策

→ **解き慣れる → 問題演習中心**

正解の根拠は問題文にある！



① **線を引きながら問題文を読む → 悪いこと探し**

② **キーワードをたどってヒントを探す → 3段跳び**

3段跳び法の要点

3段跳び法

問1を解いてみましょう

問1を選択しなかった人
→ 動画をいったん止めて問1を解いてみる

設問1　①

参照指示

設問1〔本調査の計画〕(1)について，監査部が実施しようとしている監査手続を，監査証拠を含め，50字以内で具体的に答えよ。

要求事項

条件

プロジェクト統括委員会の議事録を閲覧して，営業部長が当該委員会に参画していることを確かめる。

設問1　②

〔本調査の計画〕

……

p.6
表2の下
2行目

(1) 表2項番①について，プロジェクト統括委員会における情報共有が適切なメンバーで行われていることを確認する。

関連部門の責任者

監査手続

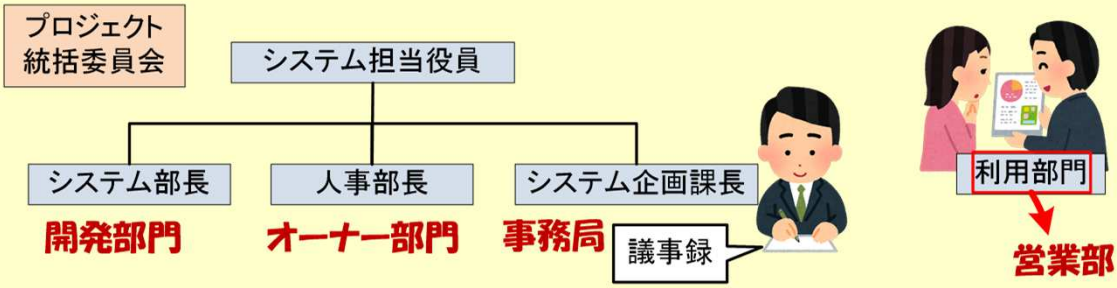
項番	監査の観点	リスク	コントロール
①	計画段階での体制の妥当性	再構築計画の意思決定において，必要な情報が関連部門の責任者に共有されない。	プロジェクト統括委員会に関連部門の適切な責任者が参画する。

p.6　表2

設問1　③

p.3
下から
2行目

……プロジェクト統括委員会では，システム担当役員，システム部長，人事部長などのメンバーが出席して，再構築計画に関する意思決定を行っている。その結果は，事務局として出席しているシステム企画課長が議事録にまとめている。



設問1　④

〔再構築計画の検討状況〕

……

p.4
6行目

(2)　新システムの業務要求の洗い出し，優先順位付け

業務チームは，オーナー部門である人事部や主な利用部門である営業部の担当者にヒアリングを行い，再構築する勤怠管理システムの業務要求を“業務要求一覧”としてまとめた。

設問1 ⑤

〔予備調査の結果〕

……

p.5
5行目

（1） 現行の勤怠管理システム構築時の人事部の担当者は既に退職しており，また，営業部等の利用部門にも，業務機能の全体を把握している者はいない状況である。また，システム部にも勤怠管理業務や労働関連法規に精通している担当者がいない状況である。

（2） 業務チームがまとめた“業務要求一覧”には，現行システムに対する改善要望や追加要望が記載されているが，勤怠管理システムの主要なユーザーである営業部などの利用部門へのヒアリングについては，あまり行われていない。

設問2 ①

参照指示

設問2〔本調査の計画〕(2)について，監査部が実施しようとしている監査手続を，監査証拠を含め，55字以内で具体的に答えよ。

要求事項

条件

プロジェクト議事録を閲覧して，働き方改革の実現の観点からの評価を行って再構築方式を決定していることを確かめる。

設問2 ②

〔本調査の計画〕

……

p.6
表2の下
4行目

(2) 表2項番②について，計画書の内容を見ると，コストやスケジュールに関する記述が中心で，再構築方式を決定するための検討が不十分ではないかとの懸念がある。そこで，リスクに対応して求められるコントロールがKプロジェクトの中で適切に実施されているかどうかを確認する。

②	システム再構築方式の妥当性 p.6 表2	再構築計画の策定を急いだ結果，C社の方針に合わない再構築方式を選択する。	C社の経営方針を踏まえた評価を実施して再構築方式を決定する。

設問2 ③

〔予備調査の結果〕

……

あいまい

p.5
下から
9行目

(6) Kプロジェクトでは，各チームの調査結果などを踏まえた上で検討を重ね，その過程をプロジェクト議事録としてまとめている。最終的に，表1中の番号②の方式が選択され，SaaSシステムを利用して新システムを構築する方針に基づく計画書が作成された。Kプロジェクトでは，プロジェクト統括委員会への提出書類を準備中である。

設問2 ④

予備調査

・各チームの調査結果を踏まえて，検討を重ねて再構築方式を決定した
・検討の過程はプロジェクト議事録にまとめている

監査証拠

C社の方針に合わない再構築方式が選択される

コントロール

経営方針を踏まえた評価を実施して再構築方式を決定

働き方改革の実現

本調査

経営方針を踏まえた評価が実施されたか，プロジェクト議事録を確認する

経営方針のままだとあいまい

設問2 ⑤

p.3
13行目

……また，経営方針の一つとして働き方改革の実現を掲げており，……

〔予備調査の結果〕

……

p.5
13行目

…… 一方で，勤怠管理システムの再構築では，勤務形態の柔軟化や事務負担の軽減を通じて時間外勤務の削減や勤務環境の改善を図り，働き方改革を実現するという，C社の経営方針に沿うことが求められている。

設問3 (i)　①

参照指示

設問3〔本調査の計画〕(3)について，(ｉ)，(ii)に答えよ。

(ｉ)　監査部が，設計工程のリスクを引き起こす要因として考えたことは何か。40字以内で答えよ。

Key　　要求事項

労働関連法規を遵守した要件定義のできる担当者がいないこと

設問3 (i)　②

〔本調査の計画〕

……

p.6 表2の下4行目

(3)　表2項番③のリスクについて，計画書の内容を見ると，現行の機能や追加・修正する機能について一覧表が記載されているだけで具体的な記載はされていない。

〔予備調査の結果〕の(1)と(2)で判明した事実を考慮すると，(1)は設計工程で，(2)は受入れテスト工程で，それぞれ問題が発生するリスクがある。これらのリスクを引き起こす要因について確認する。

③	要件定義の適切性 p.6　表2	(1)設計工程でシステムの機能にコンプライアンス上の不備が発生する。　あいまい	有識者による要件定義のレビューを実施する。

設問3 (i) ③

p.3 11行目　C社の勤怠管理システムは，十数年前に構築され，労働関連法規の改正や社内規程の改定に合わせて，たびたび改修されてきた。

〔予備調査の結果〕

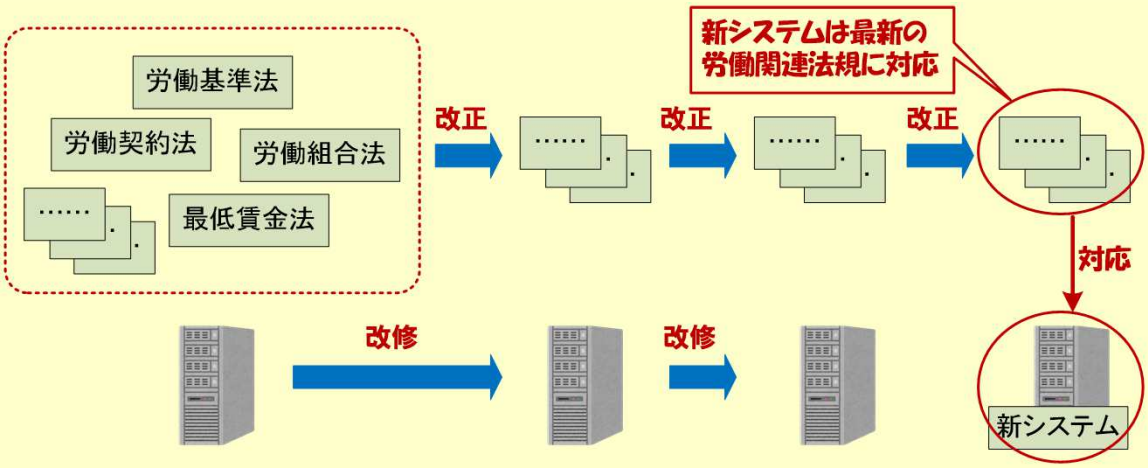
もともと参照せよと指定されていた部分

p.5 5行目　(1) 現行の勤怠管理システム構築時の人事部の担当者は既に退職しており，また，営業部等の利用部門にも，業務機能の全体を把握している者はいない状況である。また，システム部にも勤怠管理業務や労働関連法規に精通している担当者がいない状況である。

……

p.5 17行目　(4) 人事部の担当者からは，労働関連法規のたび重なる改正への対応が負担になっており，システム対応はシステム側に任せたいとの意見があった。

設問3 (i) ④



設問3 (ii) ①

参照指示

設問3 〔本調査の計画〕(3) について，(ｉ)，(ii) に答えよ。

(ii) 監査部が，受入れテスト工程のリスクを引き起こす要因として考えたことは何か。40字以内で答えよ。

Key　　要求事項

営業部などの利用部門へのヒアリングが不十分で要望を十分に把握できていないこと

設問3 (ii) ②

〔本調査の計画〕

……

p.6 下から 8行目

(3) 表2項番③のリスクについて，計画書の内容を見ると，現行の機能や追加・修正する機能について一覧表が記載されているだけで具体的な記載はされていない。

〔予備調査の結果〕の (1) と (2) で判明した事実を考慮すると，(1) は設計工程で，(2) は受入れテスト工程で，それぞれ問題が発生するリスクがある。これらのリスクを引き起こす要因について確認する。

要件のミスマッチ

③	要件定義の適切性 p.6 表2	(2) 受入れテスト工程で追加要望が多発し，開発の手戻りが発生する。	修正・追加する機能については，関係者に合意をとる。

コントロール

設問3 (ii) ③

〔予備調査の結果〕

……

p.5
9行目

(2) 業務チームがまとめた“業務要求一覧”には，現行システムに対する改善要望や追加要望が記載されているが，勤怠管理システムの主要なユーザーである営業部などの利用部門へのヒアリングについては，あまり行われていない。

設問4 ①

参照指示

設問4〔本調査の計画〕(4)について，監査部が確認しようとしている内容を，45字以内で答えよ。

要求事項

SaaSシステムに対応した業務フローの変更について十分に検討していること

設問4 ②

〔本調査の計画〕

p.6
下から
3行目

……

(4) 表2項番④について，SaaSシステムの機能要件や非機能要件の検討のほかに，SaaSシステムを利用するにあたってのC社側での業務処理の対応についての検討が十分になされているかどうかを確認する。

あいまい

④	計画段階の検討内容の十分性 p.6 表2	SaaSシステムに対応するための業務処理の検討が不十分で，本番運用時に業務が滞ったり混乱したりする。	有識者によるプロジェクト計画全体のレビューを実施する。

あいまいさは解消されなかった

設問4 ③

p.4 表1

	説明	メリット	デメリット
②	SaaS事業者の提供するシステム（以下，SaaSシステム）を利用し，C社独自の機能については追加開発を行う。	比較的短期間，低コストで構築でき，運用コストの低減が期待できる。	C社独自の機能を取り込むためには，追加コストが発生する。また，業務フローをSaaSシステムに合わせる必要がある。

設問4 ④

〔再構築計画の検討状況〕

……

p.4
9行目

(2) 新システムの業務要求の洗い出し，優先順位付け

業務チームは，オーナー部門である人事部や主な利用部門である営業部の担当者にヒアリングを行い，再構築する勤怠管理システムの業務要求を“業務要求一覧”としてまとめた。人事部の担当者からは，現行システムに大きな不満はなく，業務フローを大きく変えるようなシステムの変更は避けてほしいとの意見があった。

午後Ⅱ対策の要点

午後Ⅱ対策

- 問題と解答例を読む → ネタ集め ×丸暗記
- 書く練習 → 合格条件を満たす論文

設問の要求事項を漏らさず書く

設 AとB
A:○ B:○
×A:◎ B:ー

① 設問，要求事項によって，章と節に分ける（章立て）
② 節の中でもユニットに分ける

章立てとユニット分け

① 章立て

設問ア AとB
設問イ …
設問ウ …

第1章 AとB
1.1 Aについて
1.2 Bについて

第2章

第3章

② ユニット分け → 一つの節を複数ユニットに分ける

ネタ1
600字

(1) ネタ1
300字

(2) ネタ2
300字

問1を考えてみる

問1を選択しなかった人
→ 動画を15分位止めて，問1について
自分ならどう論述するか，考えて見る

設問イ

設問イ　設問アで述べた新規事業に関する情報システムの構築において想定したリスク及びコントロールについて，700字以上1,400字以内で具体的に述べよ。

2.1

2.2

第2章

章立て

第2章　想定したリスクとコントロール

2.1　想定したリスク

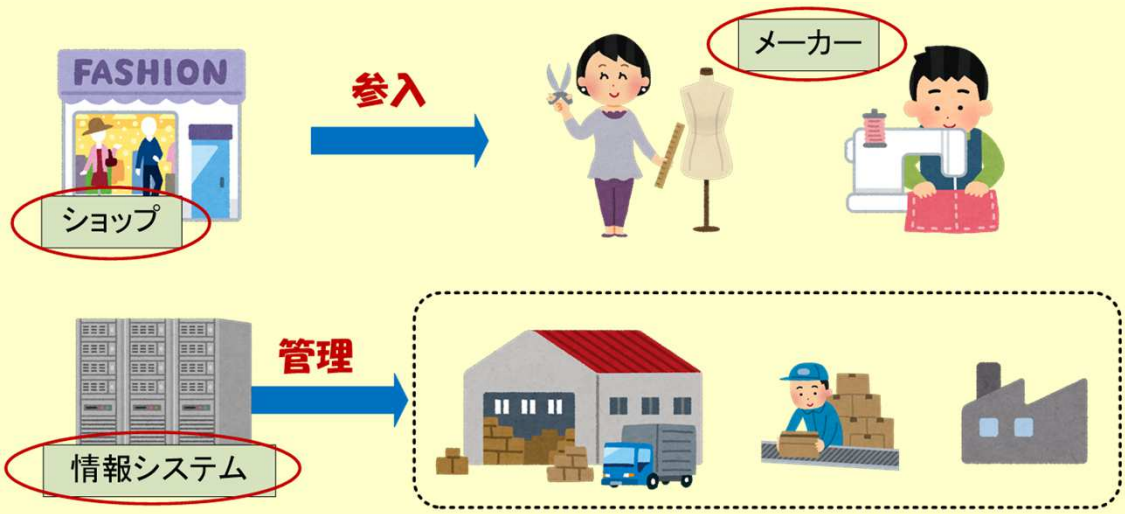
2.2　リスクに対応するコントロール

解説より　設問アの事例

（事例2）　アパレルショップ

当社は，首都圏に多数の店舗を展開する，主に30代を中心顧客とするアパレルショップを経営する企業である。現状の情報システムとしては，店舗販売システム，仕入システム，在庫管理システムなどがある。ここ数年，志を持った若手社員の間から，独自のブランドを持ちたいとの声が高まり，アパレルメーカーとしての事業を始めることになった。協力してくれるデザイナーや縫製会社を探して事業を立ち上げるとともに，新規に生産管理システム，外注管理システム，在庫管理システムなどを構築する。構築にあたっては，アパレルメーカーの情報システムに実績のあるSIerに開発を委託することになった。

メーカーへの参入

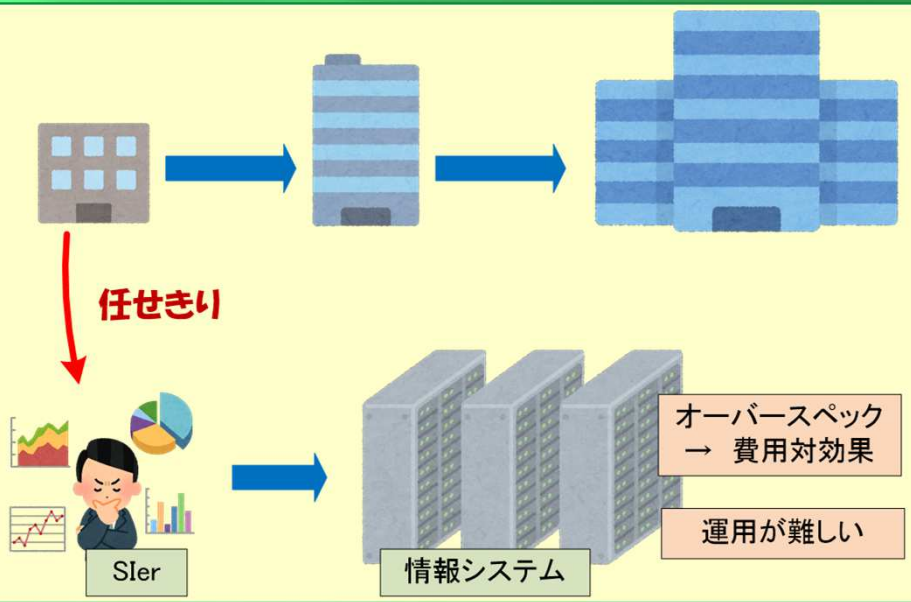


解説より　メーカー参入のリスク

（事例2）　アパレルショップ

当社において想定した一番のリスクは，システム化にあたって，十分な費用対効果が得られないことである。当社にとって，アパレルメーカーとしての事業は初めてのことであり，事業のノウハウが不足している。また，当初は生産量も少なく，採算が厳しいことが予想される。このため，アパレルメーカーに詳しいSIerに構築を依頼したとしても，任せきりにしてしまうと，大手メーカーの情報システムに準じたものを構築されてしまう可能性があり，その場合には運用も難しく，十分な費用対効果が得られないおそれがあると考えた。

メーカー参入のリスク



解説より　リスクに対するコントロール

これらのリスクに対しては，次のようなコントロールを設定した。

① SIerと緊密に協議する。プロジェクト会議において，当社の事情を十分に説明し，システム構築の担当者と意思疎通を図るようにして，当社にふさわしい情報システムを構築するように依頼する。

② システム化委員会において，費用と効果を十分に検討する。将来の売上と利益の予想をさまざまなパターンで検討する。また，システム構築及び今後の運用にかかる費用を厳密に計算する。

リスクに対するコントロール

連絡会議

段階的開発

運用担当者

開発の初期段階から運用性を作り込む

章立ての目論見

第2章　想定したリスクとコントロール

2.1　想定したリスク

2.2　リスクに対応するコントロール

（1）　リスクA　200～300

費用対効果が得られない

（2）　リスクB　200～300

運用が難しい

（1）　リスクAのコントロール

段階的な開発，緊密な連絡

（2）　リスクBのコントロール

初期から運用性を作り込む

展開　①

①

参入当初の事業規模が小さいにも関わらず，
大手メーカーに準じたシステムが開発

前段で

役割分担が不明確で，
開発がSIerに任せきりになる

Why

結果

メーカーとしての事業ノウハウの不足
→　開発初期段階からSIerに委託

Why

③ 情報システムの開発コストが増大

例えば

Why

④

What

十分な費用対効果が得られないリスク

人手や簡単なツールで代用できる機能を
システムに実装　②

結果

⑤

情報システムの開発コストが回収できず
事業そのものが中止になる

論述 ①-1

第2章　想定したリスクとコントロール　220字

2.1 想定したリスク

当社にとって，アパレルメーカーとしての事業は初めてのことであり，ノウハウが不足している。そのため，アパレル業界に詳しいSIerを選定して，システム開発の初期段階から参画してもらうよう委託している。このような開発形態では，当社とSIerとの役割分担が不明確になり，開発がSIerに任せきりになる可能性がある。

このような関係を踏まえ，私は構築後の情報システムについて次の二つのリスクを想定した。

前振り

話の前段を設けて前提を改めて説明するとわかりやすい。
無理に入れる必要は無い。

論述 ①-2

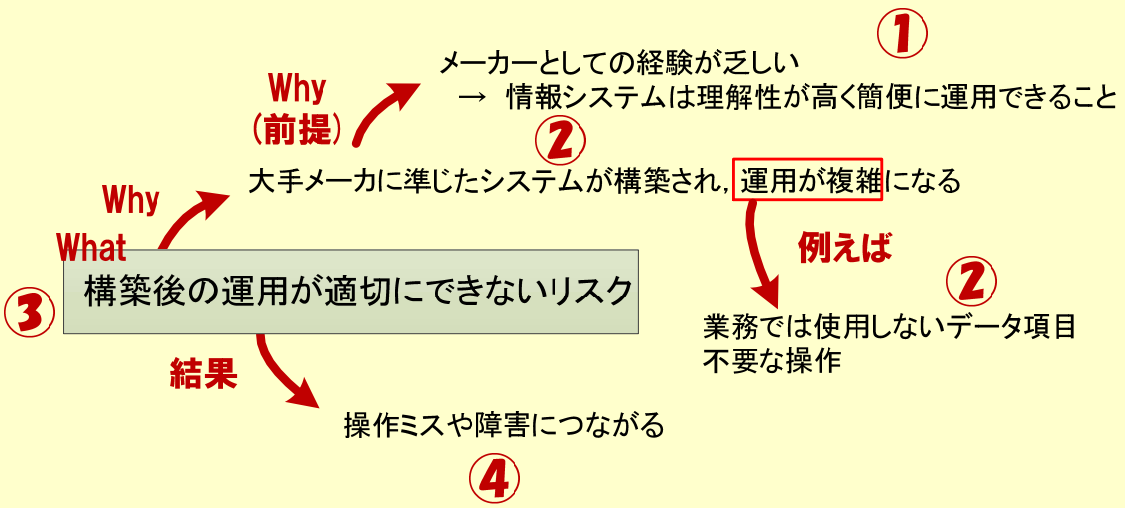
(1)　十分な費用対効果が得られないリスク　250字

アパレル事業への参入当初は事業規模が小さく生産量も少ないことが予想される。それにも関わらず，開発をSIerに任せきりにしてしまうと，大手メーカーに準じた情報システムが開発されてしまう恐れがある。結果として，例えば人手や簡単なツールで代用できる機能でもシステムに実装してしまうなど，情報システムの開発コストが実情を超えて増大し，十分な費用対効果が得られないリスクがある。リスクが現実化すると，情報システムの開発コストが回収できず，事業そのものが中止になる可能性もある。

気にしない

話の流れ上「SIerに任せきり」が前段と被ったが，この程度気にしない。
文章を気にするよりどんどん書き進めよう！

展開 ②



論述 ②

(2)　構築後の運用が適切にできないリスク　200字

当社の社員はアパレルメーカーとしての業務経験が乏しい。そのため，情報システムは理解性が高く簡便に運用できることが望まれている。ところが，大手メーカーに準じた情報システムが構築されてしまうと，業務では使用しないデータ項目や不要な操作が増えるなど運用が複雑化して，運用を適切に行えないリスクがある。結果として，操作ミスや障害につながる可能性がある。

文字数

200字弱
予定通り

展開 ③

費用対効果に対するコントロール

What

事業規模に合わせた適切な機能の開発

具体的

・中長期的な事業計画書を作成 → 事業規模に合わせた機能の段階的な開発
・連絡会議を定期的に開催 → 事業計画の変更などの状況に対応

論述 ③

2.2 リスクに対応するコントロール　200字

(1) 費用対効果のリスクに対するコントロール

費用対効果のリスクを低減するためには，事業規模に合わせた適切な機能の開発が必要である。具体的には次のコントロールを定めた。

・中長期的な事業計画書を作成し，事業規模に合わせた機能の段階的な開発をSIerに依頼する。

・当社担当者とSIerが参加する連絡会議を定期的に開催し，事業計画の変更などの状況に対応できるようにする。

展開 ④

運用のリスクに対するコントロール

What

運用性を重視した開発，要員への教育・訓練

具体的

・システム開発の上流工程に運用担当者が参画 → 運用性の観点から意見を述べる
・運用手順書を早期に作成 → 手順書に基づいた担当者への教育・訓練

論述 ④

(2) 運用のリスクに対するコントロール 160字

運用が適切にできないリスクを低減するためには，運用性を重視した開発および要員への教育・訓練が必要である。具体的には次のコントロールを定めた。

・システム開発の上流工程に運用担当者が参画し，運用性の観点から意見を述べる。

・運用手順書を早期に作成し，手順書に基づいた担当者への教育・訓練を行う。

文字数

少なくとも200字を超えるよう，もう少し頑張りたかった。

2章全体の文字数は1000字越えを達成したので予定通り。

お疲れ様でした

ラスト1Wの対策スケジュール

月：午前対策　問題演習50題以上

火：〃

水：午後Ⅰ対策　45分解く→1時間検討　×　2題以上

木：午後Ⅰ対策　45分解く→30分解説　×　3題以上

金：午後Ⅱ対策　論文例を5本以上読む

土：午後Ⅱ対策　論文を1本作成，余裕があればもう1本